

特集：卒業

自信を持って

佐藤 忍（筑波大学 生命環境科学研究科、生物学類長）

皆さん卒業おめでとうございます。87人の卒業生に学位記を手渡す事ができて大変嬉しく思います。ここにいる皆さんはほとんどが2005年度入学ですが、この年は私が生物学類長を拝命した年で、4年間試行錯誤しながら皆さんと一緒に成長させてもらってきたというのが実感です。

筑波大学は皆さんが入学される前年の2004年に国立大学法人へと移行し、今までの国の一機関から独立し、私立大学と同様な独立した機関となりました。そこでは、大学としての目標や財務状況など、説明責任が問われるようになりました。国立大学も切磋琢磨の時代を迎えたのです。そのような中で生物学類は、成績評価の厳密化、単位の実質化、運営への学生の意見反映を他の学類に先がけて行なってきました。皆さんには戸惑いも有ったかもしれませんが、そのような生物学類を卒業したことをぜひ誇りに思ってください。

一方、生物学の世界に目を向けてみると、皆さんが高校生であった2003年にはヒトゲノムの解読があり、それまで様々な生き物のゲノム解読が進んだこととあわせて、生物学はポストゲノム時代へと突入しました。その1つのあらわれとして、2007年に京都大学でiPS細胞が開発され、2008年には下村博士がGFPでノーベル化学賞を受賞されたことは記憶に新しいところです。皆さんが本学に在学したこの21世紀の初めは、生物学の方法論の大転換の年として後世に残ることでしょう。また、環境関係では、2007年にIPCCと米国のゴアさんが地球温暖化防止の啓蒙活動に対してノーベル平和賞を授与され、昨年はグリーンエネルギーの推進が大きなニュースになりました。

皆さんは、このような凄まじい変化の時代に大学生活を送ってきました。いつの世もそうですが、このような大きな変化の中で私達はどうか生きていったら良いのでしょうか。私は、「自分に対する自信と誇り」を持つことだと思います。まだ自分を知らないと言われるかもしれませんが、それこそが若者の特権です。自分に対する自信は過去の自分からのみわいてくると思いがちですが、「自分で思い描く将来の自分の成功のイメージ」を信じる事が最も大切だと私は思います。仕事、家庭、人生における将来の自分の望ましいイメージをずっと持ち続けること、これは大変なことですが、それこそが成功につながるのだと思います。皆さんは大変優れているし、人に誇れる点をたくさん持っています。この筑波大学生物学類を卒業した自分を大切にし、誇りを持ってこれからの人生を歩んでいってください。

最後になりますが、皆さんがここ筑波の地に集って過ごした4年間は二度と取り戻せません。教員や学友、サークルでの友人、さらには学問や様々な経験との出会いを今後の肥やしにしていってください。大学時代の友人は一生の宝です。連絡を絶やさずネットワークを維持していってください。

皆さんは本日、大学院生や社会人として新たな道を歩きだします。それぞれの道で自分なりの高い目標を掲げ、挑戦していきましょう。後に残る我々教員一同は皆さんの将来に大いに期待しています。卒業おめでとう。

Contributed by Shinobu Satoh, Received March 31, 2009.